

RNNReligious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信仰者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

そよかぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献ヒア岡山構想を推進する会内

人道援助宗教委員会

委員長：西村美智雄

広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212 岡山市尾上神道山2770

TEL / FAX 086-284-1242

アドレス <http://www.rnn-center.org/>

RNN事務局長：黒住宗道

新校舎の前で完成式の開会を待つRNNメンバーと子供たち
新校舎は鉄筋コンクリート平屋造りで、壁は煉瓦積の上に
化粧塗が施されている。4つの教室と職員室、トイレで構成され
約300人の子供たちが床に座って授業を受けることになる

2002年 1月23~27日

インド西部地震
復興支援事業パンチャヤティ小学校再建
アンベードカル女子寮井戸掘削

完成式及び震災一周年復興祈願、世界平和祈念式典挙行

RNNでは、昨年1月26日に発生したインド西部地震の復興支援に立ち上がり、初の海外でのプロジェクトとして、地震で倒壊したグジャラート州ガンディダムのカルゴスラムにあるパンチャヤティ小学校の再建に取り組んできましたが、昨年夏の着工から約半年間の工期を経て昨年末に完成、1月23日から27日まで、西村委員長、永宗副委員長ら金光教、黒住教、天台宗など7人のメンバーが現地へ赴き、震災一周年となる1月25日に完成式を挙行しました。また、浄財を余すことなくより有効に活用するため、追加支援として、倒壊したプジ市のアンベードカル女子寮に井戸を掘削し、前日の24日に、引き渡し式を執り行いました。

ここに、今回のプロジェクトを特集した『そよかぜ』6号を臨時刊行し、ご協力を頂きました皆さまへのご報告に代えさせて頂きます。(事務局)



アンベードカル女子寮で井戸を囲む生徒とRNNのメンバー

そよかぜ
小与加世

ついに「宗教」であらねばならぬ、と想う▼いろんな局面で「宗教」のありようが問われる。科学の思考回路からは「宗教」は要らないかもしれない▼しかし「宗教」独自の領域があれば、科学で証明されない真実相もある。

1+1=2であり、AはAであつてBではない、という思考回路から出てこない正解もある▼たとえば二人が協力して仕事をすれば(+)2以上の成果をあげた。二人のあいだに非協力があれば結果は(一)以下。これも人間世界▼ボランティアにおいてしか。協力は大いなる成果をもたらす。また世に言う「宗教戦争」も、宗教がほんとうの「宗教」であれば起こりえないだろう▼今一つ、人間は死んだらおしまい。生と死の二つしかないと考えている向きが多い。生と死の向こうに何が見えるか。それが「宗教」であり、信仰者の生き方だ。生死の「彼岸」に無限の楽しみあり。

RNN初代委員長

真言宗御室派長泉寺住職

宮本 光研

完成式で日本からメンバー7人がインドへ インド西部地震復興支援レポート

1月23日午前10時20分、私たちはRNN訪印団7名を載せたキャセイパシフィック503便は、小雪の舞う関西国際空港を飛び立ち、香港で751便に乗り換え、バンコク経由で約13時間をかけて、午後9時(現地時間)にムンバイ空港に到着しました。インドとの時差は3時間、季節は冬ながら、日本の夏と同じ程度の気温でした。空港では、RNN海外特別メンバーで、今回の現地での事業推進を全面的に引き受けて頂いたパンニャ・メッタ協会(PMS)代表のサンガトナさんと千鶴さん夫妻に迎えられ、車に分乗してホテルに向かいました。

対パキスタンの軍事拠点ブジ

翌24日は午前11時にムンバイ空港を立ち、約1時間後地震の震源地であるグジャラート州ブジ市のブジ空港に到着しました。いざ、ブジ空港に着いてみると、そこは完全な軍の飛行場で、その滑走路を民間機が使わせてもらっているだけでした。パキスタンとの緊張の高まりから、普段は格納されている軍用機は外で待機し、臨戦態勢を取っていました。国境に近いブジはパキスタン攻撃の最前線の軍事拠点だったのです。地震直後に海外からの支援者の被災地入りには難色を示した政府の態度がようやく分かりました。

インドの情勢は想像以上に緊迫

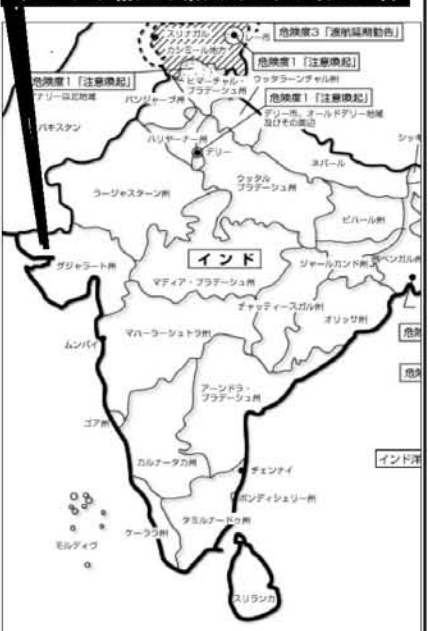
ホテルでは、日程確認や打ち合わせを行い、この中でサンガさんから特に注意が促されたのが、「去年の国会議事堂襲撃テロ以来、各都市でテロや暴動が続く、さらにカシミールを巡るパキスタンとの関係悪化等々、インドは今、緊迫した情勢。さらに与野党が震災一周年の行事で対立していたり、26日は共和国記念日で、滞在中に何が起こってもおかしくない状況」ということでした。

こうした状況のため、空港のセキュリティチェックは当然厳しくなっており、特に国内線は厳重だということで、刃物やスプレー、ライターなどはもちろんのこと、電池類や電気製品など一切をサンガさんに預け、別のスーツケースに一括して詰めて運んでもらいました。

アンベードカル女子寮に井戸を寄贈

飛行機を降りた私たちは、PMSのスタッフと合流し、ブジ市内の食堂で昼食を済ませ、今回の最初の行事となるアンベードカル女子寮での井戸の引渡式に向かいました。

グジャラート州カチン県ガンディダム町カトル村



昨年の暮れには、パンチャヤティ小学校の工事もほぼ終わり、建設費用の収支の概算が分かった時点で、支援金の残金約40万円の扱いをサンガさんに相談していたのですが、ちょうどPMSに支援要請を出していたアンベードカル女子寮がRNNに紹介されたのです。予算内の約30万円で井戸を掘ることができ、工期も半月で私たちの訪印にも間に合うということでした。

地震の日、寮舎は完全に崩壊し、生徒たちも下敷きになったのですが、全員、奇跡的に救出されたそうです。最近、狭いながら仮寮舎も建てられ、仮設テントでの厳しい生活からは解放されながらも、干ばつによって生活用水が著しく不足するという事態に陥っていたということでした。

ので、井戸支援を追加実施させて頂きました。

指定カーストの学生も受け入れ

なお、この寮はブジで唯一、指定カーストの学生を受け入れている画期的な寮で、そんな寮を支援することができたことは、私たちにとても意義のあることができたことでした。

式を終え、学生たちに見送られて女子寮を後にして、バスでブジ市からトウンダーワンダ村に向かう途中の午後3時半と、村を出てガンディダムまでの途中の午後8時には、バスの中からでしたが、ローマ教皇の呼びかけによりイタリア・アツシジの聖フランチェスコ大聖堂で開催された「世界平和の祈り」に合わせて全員で祈りを捧げました。この祈りの集い出席していた黒住宗道RNN事務局長(黒住教副教主)はアツシジから、宮本光研真言宗御室派長泉寺住職(RNN初代委員

私たちは、歓迎の記として生徒たちから額に朱と米粒をつけてもらって引渡式に臨みました。最初に西村美智雄RNN委員長(KPAC専務理事)と松田敬一金光教本部総務部長が金光教の様式で祈りを捧げ、事業概要の刻まれたプレートを除幕しました。そして西村委員長がポンプの始動スイッチを入れると、ホースの先から貯水タンクに水がほとばしり、拍手が沸き起こりました。

アッジにに合わせて平和の祈り

パンチャヤティ小学校のあるガンディダムに向けて出発しました。その途中、原住部族である放牧民ラバリ族が住むトウンダーワンダ村に立ち寄り、伝統の息づく村を見学し、そこで手作りの夕食を頂きました。



アンベードカル女子寮で黙祷するメンバー



アンベードカル女子寮の井戸引渡式で祈りを捧げるメンバー



今回の旅でたいへん御世話になった千鶴さんと女子寮の生徒たち

子供たちの笑顔に包まれ、パンチャヤティ小学校完成式を挙行

現地の諸宗教者とともに犠牲者慰霊、早期復興、世界平和を祈念



完成式の冒頭に黙祷する日印両国の宗教者



修祓で大麻行事を修する黒住教の野村本部教師



祭詞を奏上する金光教の松田次長と西村RNN委員長

明日を担う子供たちに
よりよい教育環境を

26日、ムンバイでは、共和国記念日で賑わう市内を観光することでも、ホテルでの休憩、仮眠を取ったのち、午前2時に空港に入り、午前5時5分の便でバンコク経由、香港乗り換えで関空に到着し、午後10時前に全員無事に帰国致しました。

抑圧され、見過ごされた人々に光を

昨年5月にサンガさんに二一調査を依頼し、その報告を受けて6月に西村委員長と金井訓KPA C事務局長が被災地を視察したのですが、現地でその実態を目の当たりにし、「抑圧さ

れ、見過ごされた人々に光を

子供たちとともに礼拝
祈りが国境を超えた瞬間

式典の終わりに西村委員長は、「明日のインドを担う子供たちに、よりよい教育環境を与えて頂きたい」と挨拶し、そして新校舎のテープカットと記念プレートの除幕を行いました。

長）は出張中のハワイから、さらに日本では他のメンバーがそれぞれの教会、寺院などで同時に祈りを捧げ、世界四地域からのRNNの世界平和への祈りを結集することができました。

被災地アンジャールでPMSの取り組みを視察

翌25日は、午後からの完成式に先立ち、プジ、パチャウと並んで被害の甚大だったアン

に日本から寄贈された救急車による巡回医療サービスなどPMSが手掛けている復興支援の取り組みを視察しました。

諸宗教合同で世界平和祈願

式典の終わりに西村委員長は、「明日のインドを担う子供たちに、よりよい教育環境を与えて頂きたい」と挨拶し、そして新校舎のテープカットと記念プレートの除幕を行いました。

テープカットをする(手前)永宗副委員長、サンガ氏、西村委員長

